

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

夏休み親子体験イベント

どろめんこ ～泥面子を作ってあそんでみたよ～



「ま」とに向かって泥面子を投げ入れる様子

真剣な眼差しで泥面子を投げる姿は、江戸時代の子どもでも、現代の子どもでも変わらないことでしょう。

夏休みまただ中の7月27日に、今年も夏休み親子イベント「親子で泥面子どろめんこを作って遊ぼう」が、雑司が谷地域文化創造館の夏休み親子体験イベントとして開催されました。

今回は4組10名の親子が参加し、江戸時代のおもちゃである泥面子どろめんこの製作と泥面子どろめんこを使ったゲームを行い、昨年同様、雑司が谷地域文化創造

館にて泥面子どろめんこについての説明と泥面子どろめんこの製作を行いました。作り方は、粘土を樹脂製の型に入れ取り出し、形を整え乾燥させるととても簡単な作業です。またこの型は当会の特製のものです。雑司が谷遺跡で出土した本物の泥面子から型を起こしているため、乾燥させた泥面子どろめんこは本物と見間違えるほどです。今回は20種類の文様の型を用意しまし

た。全ての文様をコンプリートしたり、お気に入りの文様をひたすら作ったりと参加した親子は、思い思いに泥面子作りを楽しんでいました。

泥面子の製作を終えると、今年も法明寺さんのご協力の元、鬼子母神堂境内の一角をお借りして、泥面子を使ったゲームを行いました。ゲームは、江戸時代の泥面子遊びの一つである「まと」を当会独自のルールで再現したもので、親子ペアになって離れた円形的に泥面子を投げ入れ、落ちた地点の点数の合計を競うというものです。最初は思うように泥面子が的に入らず、苦戦するお子さんもいましたが、慣れてくると大人より上手に泥面子を投げ、的に中心にうまく入れるお子さんもいました。

雷雨が近づいたためゲームを早めに切り上げ、創造館で表彰式を行いました。勝って喜ぶお子さんや負けたことに悔しがるお子さん、ここまで熱中して楽しんでもらったことは、担当者としては嬉しいかぎりです。特に参加したお子さんは勿論のこと、保護者の方々も童心にかえり、夢中にな



泥面子を作る様子

大人も子どもも、夢中になって泥面子を制作しました。泥面子作りは型から粘土を取り外すことが難しかったです。

って泥面子を作ったり、的に投げたりして楽しんでいました。

来年以降も親子で参加できる体験イベントを続けていければと思います。(榎本邦人)

◇豊島区の文化財展 2014◇

東京都教育委員会主催の東京都文化財ウィーク関連事業として豊島区教育委員会（以下、区教委）が行っている文化財展示が今年も開催されます。この展示は、埋蔵文化財を中心とした区内の文化財についてご紹介する内容となっています。当会は、区教委より委託を受けて、埋蔵文化財コーナーの展示内容の企画立案や設営など関連する作業を行なっています。

今年、豊島区内の江戸時代の大名屋敷を中心とした武家屋敷跡地での発掘調査によって得られた成果をご披露する予定です。豊島区の所在する地域は江戸の中心部から少し離れた場所に位置していました。そんな、江戸の周縁部ににあった武家屋敷跡地から発掘された遺構の写真や出土した遺物の実物を展示してご紹介します。会期が5日間と短いですが、内容は例年通り充実したものとなるよう鋭意制作中です。

この区役所ロビー展示も今回で11回目を迎えますが、来年の豊島区役所本庁舎の移転に伴い、現庁舎で開催する最後の展示となります。来年以降の展示については未定ですが、文化財保護の精神の普及を目的のひとつとしている当会としては、教育委員会と協働を図り、今後も継続してゆければと考えております。会員の皆様には当会への活動に引き続きご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。(山崎吉弘)

開催期間：2014年11月11日～18日(土・日は休み)

時間：午前9時～午後5時

場所：豊島区役所本庁舎1階ロビー

観覧料：無料



津藩藤堂家屋敷跡から出土した家紋瓦（蔦紋）

2014年度も早いもので、半年が過ぎました。今年度も遺跡の発掘調査・試掘調査が数多く行われています。今回は、今年度上半期におこなった主な遺跡の発掘調査の成果をご紹介します。

雑司が谷遺跡 雑司が谷 3-19-6 地区（確認調査） 8月～9月

雑司が谷遺跡は、旧石器時代から近代にかけての遺跡です。遺跡の範囲内には江戸時代から子育ての名刹である鬼子母神堂きしもじんどうがあります。

調査を行った雑司が谷 3—19—6 地区は、江戸時代に賑わいをみせた鬼子母神参道から奥に入った場所で、周辺の調査では参拝客目当ての料理屋や、茶店などの痕跡が多く発見されています。

本地区でも、近世から近代にかけての遺物や遺構が発見されました。特に注目される成果として、江戸時代の土間と考えられる硬化面の発見と、近代と考えられる建物基礎の発見です。現在整理作業中のため、詳細な成果については不明な点も多いですが、江戸から近代へと雑司が谷の町並みの変化が変化していったことが窺えます。今後の調査にご期待ください。（榎本邦人）



遺跡の発掘風景（雑司が谷 3-19-6 地区）

炎天下の中、人力で作業を行いました。

旧感応寺境内遺跡 目白の集合住宅地区（本調査） 9月～10月

旧感応寺境内遺跡は、閑静な目白の住宅街に位置している遺跡で、江戸時代には、遺跡名の由良となった鼠山感応寺ねずみやまかんとうじ（天保12〔1841〕年に廃寺）がありました。これまでの発掘調査では江戸時代の遺構や遺物を中心に、縄文時代の遺物なども見つかっています。

今回調査の行われた目白の集合住宅地区は、この感応寺に設けられた源性院の客殿及び庫裏の近くと考えられています。発掘調査の結果は、近世の植栽痕しよくさいこんや溝状の遺構はたけうね、畑畝などの遺



構や、近世から近代にかけての遺物が発見されています。また本地区からは、縄文時代

の土器片や陥穴などの遺構が発見されました。特に陥穴が発見されたことは、旧感応寺境内遺跡跡では初めての発見です。豊島区内においても希少な事例となりました。今後の整理作業にご期待ください。（榎本邦人）

発見された縄文時代の陥穴おとしあな

イノシシやシカを捕まえやすくするため、細長く掘られた穴は、底に行く程幅が狭くなる構造でした。



遺跡の発掘風景（目白の集合住宅地区）

図面作成の様子。水糸を張り、遺構の位置などを計測し、図面に起こします。

～遺跡調査に携わって～

私が遺跡調査の仕事に携わるようになって、早くも半年がたとうとしています。これまで遺跡調査について何も知らなかった私にとって、すべてが初めての世界でした。しかし、一つ一つの経験が大変勉強になり、充実した半年であったと感じています。

私が調査会に入って初の仕事は、遺物を図化する実測作業でした。実測も初体験であった私は、道具の名前を覚えるところから始めました。実測は、遺物を正確に測ったつもりでも、表面の微妙な凹凸をしっかりと描き写すのは至難の業でした。初日は何度も測り直し、描き直しを繰り返し、一日で描けたのは一本の線だけでした。それでも、何度もやり直していくうちに徐々にコツがつかめてきました。遺物を手で触るなど、よく観察することで、正確な実測ができるということを身をもって経験しました。

実測のほかにも、遺物の注記や接合作業を行いました。特に、接合作業は衝撃的でした。一見同じようにしか見えない遺物の破片が山のように積まれ、その中から遺物を復元するという作業は気が遠くなるようで、答えのないパズルのように感じました。特に土器の破片は、非常に似ていて分かりづらいのですが、よく観察し触ることで、形や割れ方、色や模様、厚さや堅さ、手触り等に微妙な違いがあることが分かるようになってきました。

そして、なんといっても実際の発掘現場での体験は印象的でした。私が初めて参加した発掘現場は、商店街のすぐそばという立地でした。そこは一見街中でよく見かける工事現場のようで、作業の様子も含めて、私のイメージしていたものとはかなり異なっていました。発掘初日は、初めて発掘調査に参加できる期待と喜びが大きく、はりきって作業に入りま



図版作りも大切なお仕事です。

した。遺構の掘削や写真清掃、撮影補助など一連の作業をやらせてもらうことができました。しかし、現場での作業は私の想像をはるかに超えるもので、お昼休憩のときには立つこともできないほど疲労していました。初日は作業内容を覚えるというよりは、一日を乗り切ることで精一杯の状態でした。すべての作業が初めてである私に対して、調査員や作業員の方々は丁寧に指導してくださり、合間の時間には現在調査している地層や遺構の説明までしてくださいました。質問にも親身に答えていただき、作業のフォローもしていただきました。そのおかげで、あまり不安な気持ちにならずに作業を進めることができました。調査に参加できたのはわずか四日間ほどでしたが、皆さんのおかげで非常に充実した初現場になったと思います。

遺跡調査の仕事はやはり大変なことも多く、勉強しなければいけないことも山積みです。しかし、やりがいがあり、興味をそそられる仕事であることも間違いありません。まだまだ分からないことばかりで、周りの方々に助けられてばかりですが、それでも一つ一つ経験を積んで自分の実にしていきたいと思っています。これからも、この遺跡調査の仕事に携わっていただけることを非常に嬉しく思います。(早稲田大学3年 大槻 聡)

【編集後記】

今年、例年以上に発掘調査が続き、現場で過ごす時間が多かったです。雨の日や猛暑の日など大変な日もありますが、現場でみんなと食べるお昼は、最高の贅沢だと感じています。(2)

編集・発行

特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：榎本邦人・千葉弘美

「つたのは通信」の由来：蒔は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蒔の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。